



報道部	076(233)4613
代表	(261)3111
FAX	(265)7490
小松支局	0761(22)0343
FAX	(22)0200
白山支局	076(275)0626
FAX	(274)9105
七尾支局	0767(53)0498
FAX	(53)6887
加賀通信局	0761(72)0433
FAX	(72)0558
輪島通信局	0768(22)0306
FAX	(23)8025
羽咋通信局	0767(22)0463
FAX	(22)8022
津幡通信部	076(289)2331
FAX	(288)8210
能美通信部	0761(57)1330
FAX	(57)1319
穴水通信部	0768(52)0429
FAX	(52)8026
能登通信部	0768(62)0120
FAX	(62)8011
珠洲通信部	0768(84)5247
FAX	(84)5248

病院薬剤師育成に一手

大学病院などの基幹病院と地域病院の双方で就業しながら専門資格を取得できる病院薬剤師の人材育成プログラムが、この春から県内で本格始動した。病院薬剤師の地域偏在解消を目指し、県と県薬剤師会が行う全国初の取り組み。



人材育成プログラムに参加した島名世南さん(右から2人目)ら＝県庁で

県など 地域偏在解消へ独自支援

1期生となる金沢大病院の薬剤師、島名世南さん(24)＝神奈川県出身＝が9日、石川県庁を訪れ、馳浩知事に着任を報告し「地域医療に密着し、専門性も高めてくれるプログラムは他にない。患者に寄り添ってサポートしていきたい」と語った。

プログラムは地域病院への勤務を条件に、キャリアアップにつながる資格取得や薬学部の在学中に借り入れた修学資金の返済(最大240万円)を支援するもの。例えば大学病院などの基幹病院でがんや腎臓病など専門薬剤師の資格取得に向けた経験を積んだ後、地域病院で勤務してもらう。

島名さんは在学中にプログラムを知り、インターシップ(就業体験)に参加したのがきっかけ。精神医療の専門性を高める考えで「地域に密着し精神疾患の患者を

いかに支え合うのかを学び、再発予防や患者の心地良い場所を作りたい」と述べた。金沢大病院で2年勤務した後、公立宇出津総合病院(能登町)に即戦力として勤める予定。

薬剤師を巡っては医療の高度化や医薬分業の進展で需要は高まっているが、多くは市中の薬局に勤務し、医療機関での確保が難しくなっている実情がある。県内では2022年時点で664人が医療施設に従事。医療圏別に人口10万人当たりで見ると、石川中央の67・0人に対し、能登北部は39・9人、能登中部は43・4人で、全国平均の50・0人を下回った。能登をはじめ、全国には同様の課題を抱える地域もあり、県薬剤師会の中森慶滋会長は「石川モデルとして全国に波及させる意義は大きい」と期待。知事も「安心して医療が受けられるようにすることが大事だ。第2、第3の人材にも期待し、厚生労働省にもアピールしたい」と語った。(田嶋豊)